

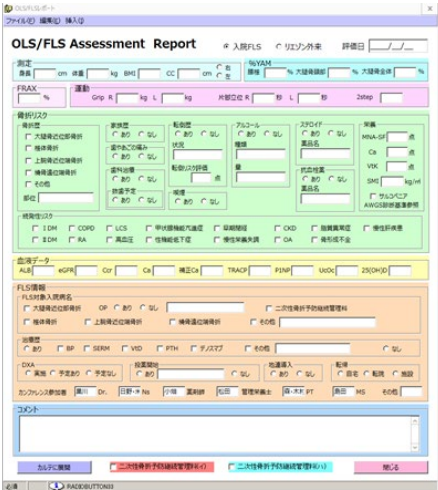
テーマ	Monitoring / Maintenance（継続支援・経過観察）の院内 FLS データベースの構築		
執筆者の 所属と職種 および氏名	大阪府済生会吹田病院 理学療法士 木村孝	執筆年月日	2026/6/10

- <ポイント>
- 定義統一がデータ活用の起点：用語・記録形式を多職種で事前合意し構造化テンプレートに実装することで、集計・分析が初めて機能する。
 - 入院～外来を一元管理する多職種ワークフロー：各職種が役割分担のうえ順次入力し、カンファレンス・退院後フォローまで単一データフローで管理。診療報酬算定にも直結。

1. 背景

脆弱性骨折は一度発生すると二次骨折リスクが著しく高まるが、骨折後に適切な骨粗鬆症治療を受ける患者は世界的に約 20%にとどまる¹⁾。この「ケアギャップ」への対応策として骨折リエゾンサービス（FLS）が国際的に普及し、わが国でも 2019 年に FLS クリニカルスタンダードが策定²⁾、2022 年度には「二次性骨折予防継続管理料」が新設された³⁾。FLS を実効的に機能させるには、多職種連携による介入とともに、患者情報を継続的に管理・分析できるデータベース基盤が必要である。

2. 院内 FLS データベースの構築



データベースを構築するうえで最初に取り組んだのが、記録すべき情報の「定義」を明確にすることであった。多職種が関わる FLS では、同じ事象を指す言葉が職種ごとに異なっていたり、記録の粒度がばらついたりすることが少なくない。判断の定義と選択肢の統一をしておかなければ、後に集計しても意味のある比較はできない。骨粗鬆症治療薬の種類、骨折種別、評価指標のいずれについても、チーム全体で「何を・どの言葉で・どの形式で残すか」を合意することが、データ活用の前提条件となる。

これらの定義をもとに、電子カルテ上に「OLS/FLS Assessment Report テンプレート」（図 1）を作成

Assessment Report テンプレート」（図 1）を作成

した。設計の要件として①多職種間での評価項目の共有、②情報の一元管理、③効率的な抽出・加工、④傾向分析への活用可能性の 4 点を掲げ、入力形式は Yes/No コントロールやプルダウンなどで構造化し、入力者の負担を最小化しながらデータの均質性を担保した。また、テンプレートからデータを抽出し、Excel ベース（どのデバイスでも使用でき特別なソフトを要しない）のシステムも整備し、患者ごとの単票とリストを連動させた。

蓄積されたデータは CSV 形式で抽出し、データクレンジングを経てダッシュボードにインポートする。（図 2）骨折種別・転帰分布・骨粗鬆症治療開始率・投薬種別・地域連携パス適応率といった指標を可視化することで、傾向分析や FLS 活動のブラッシュアップを検討している。

3. 本事例の意義と課題

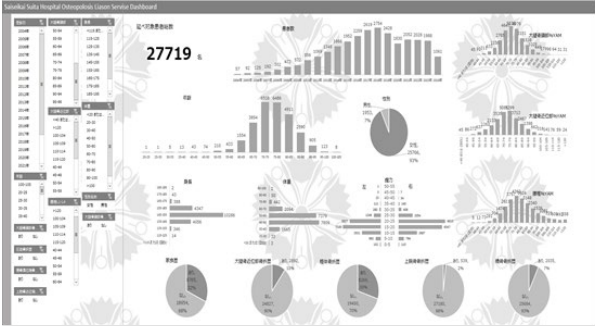


図2 抽出データを加工したダッシュボード

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、リハビリテーション専門職、医師事務作業補助者など多くの職種が関与する活動においては、情報共有の仕組みがなければ評価や介入の漏れが生じやすい。特に骨粗鬆症治療状況や栄養状態、身体機能評価、転帰などは職種ごとに記録方法が異なることが多く、後から集計や分析を行おうとしてもデータの整合性が確保できない場合が少なくない。

記録データの定義と入力方法の簡略化を自走したテンプレートにより、患者登録から評価、カンファレンス、退院支援、外来フォローアップまでを一つの情報基盤上で管理できるようになった。さらに、各職種が担当する評価項目を明確化することで、評価の実施状況が可視化されるとともに、情報の網羅性と均質性の向上につながった。多職種が同じ情報を共有しながら介入を進められることは、FLS の質を担保するうえで大きな意義を持つと考えられる。

FLS 活動を継続的に発展させるためには、介入そのものだけでなく、その成果を評価できる仕組みが不可欠である。本事例で構築したデータベースは、診療・算定・質改善・研究を一つの流れとして結び付ける基盤であり、今後は再骨折率や治療継続率などのアウトカム評価への活用も期待される。FLS におけるデータベース構築とは単なる情報管理ではなく、多職種連携を可視化し、その成果を検証するためのインフラ整備であると考えられる。

<事例>

参考資料

- 1) 日本骨粗鬆症学会，日本脆弱性骨折ネットワーク：日本版 二次骨折予防のための骨折リエゾンサービス (FLS) 実践マニュアル，2020.
- 2) 日本骨粗鬆症学会，日本脆弱性骨折ネットワーク：日本版 二次骨折予防のための骨折リエゾンサービス (FLS) クリニカルスタンダード 第4版，2026.
- 3) 厚生労働省保険局医療課：令和4年度診療報酬改定の概要 個別改定事項V，2022.
- 4) González-Quevedo D, Rubia-Ortega C, Sánchez-Delgado A, et al. : Secondary osteoporosis prevention: three-year outcomes from a Fracture Liaison Service in elderly hip fracture patients. Aging Clin Exp Res 36, 2024

COI

本稿に関して、開示すべき利益相反はない